

議会運営委員会・議会活動活性化委員会 合同視察報告書

令和7年11月10日（月）～11月11日（火）

山ノ内町・佐久市・小諸市

議会運営委員会

議会活動活性化委員会 寺平秀行

1 山ノ内町議会

「予算決算審査委員会の運用について。広報委員会の常任委員会化について」

予算決算について、特別委員会を設置して審査をしている。その後、常任委員会化された。特別委員会設置の背景としては、かつては箕輪町と同様、各常任委員会へ付託して審査していたが、議事録が十分に取られていなかった点がある。常任委員会の議事録は概要のみ記されるということで審議内容がきちんと残されないで、特別委員会化して議事録をきちんと残すようにしたとのことでした。箕輪町議会では委員会審査でも議事録を整備しているので、取り組みの違いを実感した。

広報委員会の常任委員会化では、常任委員会に伴い広報委員長も議会運営委員会メンバーになったとのことでした。理由を質問したところ「常任委員長なので他の常任委員長と同じ責任が生じる。広報はあくまで議会が発行するものなので広報委員会独自の編集を防ぐ」との話がありました。

2 佐久市議会

「議員報酬の引き上げについて。議会BCPの策定について」

議会BCP策定のきっかけは災害時の議員活動に課題があったからとのこと。佐久市は市域が広く災害が発生したときに議員活動に温度差が現れた。災害が集中した地域の議員は地元の対応に忙殺される一方、災害がなかった地域の議員は災害発生の存在すら知らない事例もあった。

そのため、情報共有のしくみが必要であるということでBCP策定に至った。具体的には市に対策本部が設置される事例が発生したときに市議会にも対策を本部を設置する内容である。

箕輪町議会ではコロナ対策本部が町に設置された時点で議会でも対策本部を設置して情報を一元化した。混乱を避けるため議員各自が町に問い合わせをするのではなく議会で一本化し情報の共有をした。

災害の発生時は情報の共有が大事だと改めて実感した。

3 小諸市議会

「議員報酬の引き上げについて」

小諸市では平成10年に報酬が引き上げられて以降、26年間見直しが行われていなかった。その間に市長の報酬については平成19年に75万9千円から89万3千円に大幅引き上げが行われている。

報酬の検討に当たっては全国の類似都市35市、県内19市と比較検討を行った。

その結果、報酬については類似都市に比べて平均が低い状況が明らかになった。同時に議員定数についても比較を行った結果、小諸市は類似都市に比べて1.1人多い事がわかった。

市民意識アンケートでは改定前の報酬について適当と答えた市民が39%で最多であった。

その結果を受けて、小諸市議会は定数を1減とすることを決め、市に対して報酬の増額を求めた。

全体を通じて

今回の視察は、予算決算審査委員会の運用について、広報委員会の常任委員会化について、議会ＢＣＰの策定について、議員報酬の引き上げについてと非常に多岐にわたるテーマだった。各議会とも苦悩の中に解決策を求め取り組んで来たことが伝わってきた。